平成30年度決算

府中町財務書類

令和3年5月 府中町

目 次

1		財務書類作成の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・· ·
2		対象とする会計(団体)の範囲・・・・・・・・・ 2
3		作成基準日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
4		財務書類の数値について・・・・・・・・・・・・・
5		作成する財務書類・・・・・・・・・・・・・・・・
6		一般会計等財務書類から分かること・・・・・・・・・
7		財務書類から分かる主な指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
8		用語説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
【資	賢彩	以編】
Ι		一般会計等
	1	財務書類4表・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
	2	注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
	3	附属明細書・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
Ι		全体会計
	1	財務書類4表・・・・・・・・・・・・・・・ 32
	2	注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
Ш		連結会計
	1	財務書類4表・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
	2	注記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

1. 財務書類作成の経緯

以前の公会計制度は、歳入歳出予算の実績を明らかにし、財政上の責任を明確にすることを目的として設計されていることから、予算の執行や現金収支の把握に適したものとなっています。その反面、これまでに資産がどの程度形成されていて、その財源の内訳がどのようになっているのかについての情報(ストック情報)が不十分となっていました。また、現金主義に基づく公会計制度においては、現金支出以外に発生している行政コスト(減価償却費など)を把握することができませんでした。

そこで、国(総務省)が主導となり、それらの問題点を補うために、発生主義の活用及び複式簿記の考え方(企業会計的手法)の導入を図り、「新地方公会計制度研究会報告書」において示した会計モデル(基準モデル及び総務省方式改訂モデル)を活用して、公会計の整備の推進に取り組むことになりました。その際、国は各地方公共団体に対して、地方公共団体単体及び関係する団体の決算を連結した財務書類4表(財務諸表)を整備し、公表することを求めました。これを受け、府中町においても、新地方公会計制度に基づく財務諸表の整備を行うこととなりました。

財務諸表の作成にあたって、『基準モデル』と『総務省方式改訂モデル』の2つの作成基準のうち、府中町では後者を採用し、普通会計の財務書類4表については平成22年度決算から、連結財務書類4表については平成23年度決算から、それぞれ平成27年度決算までを作成しました。

しかしながら、『総務省方式改訂モデル』では団体間の比較が困難であること等を理由に、国から全ての地方公共団体に対して、平成29年度までに『統一的な基準』に基づいて財務書類を作成することが要請されたため、平成28年度決算分から当該基準に基づく財務書類を作成しています。

従来の『総務省方式改訂モデル』と『統一的な基準』の主な違いとしては、決算統計データを活用した簡便な作成方式から、歳入歳出データを複式簿記により仕分け処理する方式に変更したこと、固定資産台帳の整備が必須となったことがあります。なお、これらの処理方式の変更により、以前の方式の財務書類とは一部一致しない箇所が存在しますが、他団体との比較可能性が確保されることとなりました。

2. 対象とする会計(団体)の範囲

	区分		対象とする会計(団体)			
	全	一般会計等	一般会計、土地取得特別会計			
連	体	公営事業会計	国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、 後期高齢者医療特別会計			
結	地 方 三 公 社 府中町土地開発公社					
	一 语	部 事 務 組 合 域 連 合	広島県市町総合事務組合、安芸地区衛生施設管理組合 、 広島県後期高齢者医療広域連合			

- 作成する財務書類は、「一般会計等財務書類」、「全体財務書類」、「連結財務書類」 の3種類です。
- ・下水道事業特別会計については、地方公営企業法適用に向けての移行期間中であるため、連結していません。

3. 作成基準日

平成31年3月31日を作成基準日としています。

なお、平成31年4月1日から同年5月31日までの出納整理期間に平成30年度の 資金として行った出納については、基準日及び対象期間までに終了したものとして処理 しています。

4. 財務書類の数値について

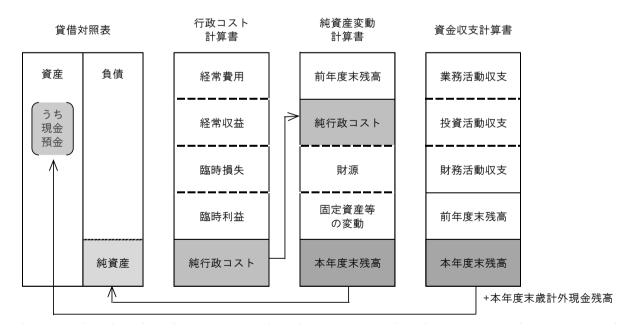
- 財務書類の数値は、各項目で四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。
- 単位未満の金額がある場合は「O」を、金額がない場合は「一」を表示しています。
- ・全体財務書類及び連結財務書類では、一般会計等との取引を相殺消去しているので、 一般会計等よりも金額が小さくなる場合があります。

5. 作成する財務書類

	貸借対照表は、年度末時点での資産や負債などの残高(ストック
	情報)を表しています。表の左側の「資産」は、町が保有している
 	道路、学校などの固定資産や、現金預金、基金などの残高を表して
貸借対照表	おり、表の右側は資産をどのような財源(負債と純資産)で賄った
	かを表しており、「負債」は将来世代の負担を、「純資産」は現在
	までの世代の負担を表しています。

行政コスト 計算書	1年間の行政運営コストのうち、福祉、教育、ごみ処理、消防など、 資産形成(施設やインフラの建設・整備)につながらない行政サービス に要したコストを、人件費、物件費等、その他の業務費用、移転費用に 区分して表示したものです。これらの費用から、使用料等を差し引いた ものが、「純経常行政コスト」(毎年度、継続的に発生するコスト)と なります。さらに、臨時損失と臨時利益の差額を加えたものが、「純行 政コスト」となります。
「純資産(過去の世代や国・県が負担した将来返済しなく」 純資産変動 計算書 産)」が1年間でどのように増減したかを示したものです。 純資産残高」は、貸借対照表の「純資産」と一致します。	
資金収支 計算書	1年間の資金(現金預金)の増減について、行政サービスを提供する 業務(業務活動)、公共施設などの資産形成(投資活動)、町債や基金 などの資金調達・運用(財務活動)に区分し、どのような活動にどれだ けの資金が必要であったかを表しています。なお、年度末現金預金残高 は、貸借対照表の「資産」のうち「現金預金」と一致します。

財務書類4表構成の相互関係



- ・貸借対照表の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の本年度末資金残高 に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。
- ・貸借対照表の「純資産」の金額は、純資産変動計算書の本年度末純資産残高と対応します。
- 行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書に記載されます。

6. 一般会計等財務書類から分かること

(1) 貸借対照表

資産は1,087億1百万円となっています。このうち純資産である795億1千7百万円は、過去の世代や国・県の負担で既に支払いが済んだものであり、負債である291億8千5百万円を、将来世代が負担することになります。

前年度と比較すると、資産の部では新たに資産となったものに比して減価償却額が 上回ったこと等により、資産合計が22億5千6百万円減少しており、負債の部では 地方債及び退職手当引当金の減少により、負債合計が19億4千7百万円減少し、純 資産合計としては3億8百万円の減少となっています。

【資産の部】 (単位:百万円)

			(単位・日の口)	
科目	金額			
17	平成30年度	平成29年度	比較	
固定資産	107,114	109,310	△ 2,196	
有形固定資産	106,696	108,882	△ 2,186	
事業用資産	77,414	79,703	△ 2,289	
インフラ資産	29,048	29,031	17	
物品	1,002	947	55	
物品減価償却累計額	△ 768	△ 799	31	
無形固定資産	7	19	△ 12	
ソフトウェア	7	19	△ 12	
その他	_	_	_	
投資その他の資産	411	410	1	
投資及び出資金	21	21	_	
投資損失引当金	_	_	_	
長期延滞債権	74	82	Δ8	
長期貸付金	_	10	_	
基金	325	305	20	
その他	_	_	_	
徵収不能引当金	△ 9	△ 9	0	
流動資産	1,587	1,647	△ 60	
現金預金	184	109	75	
未収金	34	37	∆ 3	
短期貸付金	_	_	_	
基金	1,374	1,505	△ 131	
棚卸資産	_	_	_	
その他	_	_	_	
徴収不能引当金	△ 5	△ 4	△ 1	
資 産 合 計	108,701	110,957	△ 2,256	

【負債の部】 (単位:百万円)

			(十四・口/ココ/	
科目	金額			
	平成30年度	平成29年度	比較	
固定負債	26,637	29,149	△ 2,512	
地方債	22,222	22,318	△ 96	
長期未払金	1,951	4,229	△ 2,278	
退職手当引当金	2,464	2,601	△ 137	
損失補償等引当金	_	_	_	
その他	_	Ο	0	
流動負債	2,547	1,983	564	
1年内償還予定地方債	2,341	1,782	559	
未払金	_	_	_	
未払費用	_	_	_	
前受金	_	_	_	
前受収益	_	_	_	
賞与等引当金	158	159	△ 1	
預り金	48	41	7	
その他	0	1	△ 1	
負 債 合 計	29,185	31,132	△ 1,947	

【純資産の部】 (単位:百万円)

科目	金額			
	平成30年度	平成29年度	比較	
固定資産等形成分	108,488	110,818	△ 2,330	
余剰分(不足分)	△ 28,971	△ 30,993	2,022	
純 資 産 合 計	79,517	79,825	△ 308	

(2) 行政コスト計算書

経常費用合計から経常収益を差し引いた純経常行政コストは、142億1千8百万円です。純経常行政コストに臨時損失と臨時利益の差額を加えた純行政コストは、147億7百万円となり、このコストは、町税などの一般財源や国・県補助金などで賄っています。経常費用に対する経常収益の割合である受益者負担率は、3.9%となっています。

平成30年度の純経常行政コストは、物件費やその他の業務費用の減少により、前年度と比較して6億9千2百万円の減少となっており、さらに臨時損失は増となりましたが、純行政コストとしては2億6千8百万円の減少となっています。

科目	金額			
	平成30年度	平成29年度	比較	
経常費用	14,796	15,233	△ 437	
業務費用	6,329	7,288	△ 959	
人件費	3,011	2,973	38	
物件費等	3,033	3,925	△ 892	
その他の業務費用	285	390	△ 105	
移転費用	8,467	7,944	523	
経常収益	579	323	256	
使用料及び手数料	110	108	2	
その他	469	215	254	
純経常行政コスト	14,218	14,910	△ 692	
臨時損失	490	74	416	
臨時利益	1	10	△ 9	
純行政コスト	14,707	14,975	△ 268	

(3) 純資産変動計算書

純資産残高については、3億8百万円減少し、795億1千7百万円となりました。 純行政コストから臨時損失と臨時利益の影響を除いた純経常行政コストを、税収や補助 金などの財源でどれほど賄うことができたかを表す行政コスト対税収等比率は98.8 %となっており、平成30年度決算においては純経常行政コストが税収等の財源で賄える額を下回ったことになります。

科目	合 計			
17 🖯		固定資産等形成分	余剰分(不足分)	
前年度末純資産残高	79,825	110,818	△ 30,993	
純行政コスト(△)	△ 14,707		△ 14,707	
財源	14,395		14,395	
本年度差額	△ 312		△ 312	
固定資産の変動(内部変動)		△ 2,215	2,215	
資産評価差額	0	0		
無償所管換等	_	_		
内部取引	_	_		
その他	3	△ 115	118	
本年度純資産変動額	△ 308	△ 2,330	2,021	
一般財源等充当調整額	_		_	
本年度末純資産残高	79,517	108,488	△ 28,971	

(4)資金収支計算書

資金収支は、6千8百万円の増加となりました。その結果、本年度末資金残高は、1億3千6百万円となります。地方債などの財務活動収支を除いた収入・支出(業務活動収支と投資活動収支)のバランスを見る基礎的財政収支(プライマリーバランス)は、3億6千9百万円の赤字となっています。また、財務活動収支は4億6千3百万円であり、昨年度に引き続き地方債残高の増加を反映したものとなっています。

(単位:百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	14,081
業務収入	14,178
臨時支出	398
臨時収入	215
業務活動収支	△ 85
【投資活動収支】	
投資活動支出	922
投資活動収入	613
投資活動収支	△ 310
【財務活動収支】	
財務活動支出	1,783
財務活動収入	2,245
財務活動収支	463
本年度資金収支額	68
一般財源等充当調整額	-
前年度末資金残高	68
本年度末資金残高	136

前年度末歳計外現金残高	41
本年度歲計外現金增減額	7
本年度末歳計外現金残高	48
本年度末現金預金残高	184

7. 財務書類から分かる主な指標

	平成 30年度	平成 29年度	比較
① 歳入額対資産比率 歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、形成されたストックが歳入の何年分に相当するかを表し、団体の資産形成の規模を測ることができます。 平成30年度は、主に地方債発行収入の減少等により、前年度と比較して0.6年分の増となっています。	6.3年	5.7年	0.6年
(業務収入+臨時収入+投資活動収入+財務活動収入+前年度末資金残高) ② 有形固定資産減価償却率(資産老朽化比率) 有形固定資産のうち、償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合を算出することにより、資産の老朽化の目安を把握することができます。 平成30年度は、償却資産の増加に比して減価償却累計額が上回る増加となったため、前年度と比較して1.4%の増となっています。 減価償却累計額/(有形固定資産合計(償却資産)+減価償却累計額)	49.9%	48.5%	1.4%
③ 純資産比率 現役世代の負担によって将来世代も利用可能な資産をどの くらい蓄積しているかを表します。 平成30年度は、新たに資産となったものに比して減価償 却額が上回ったこと等により資産が減少し、かつ、純資産は 大きな変動がなかったため、前年度と比較して1.3%の増 となっています。 純資産合計/資産合計	73.2%	71.9%	1.3%
④ 社会資本形成の世代間負担比率 社会資本形成に係る将来負担すべき割合を算出することにより、過去・現世代に対し、将来世代がどのような割合で負担しているかを把握することができます。 平成30年度は、新たに資産となったものに比して減価償却額が上回ったこと等により資産が減少したため、前年度と比較して0.6%の増となっています。 (地方債+1年内償還予定地方債)/有形固定資産合計	14.4%	13.8%	0.6%

	平成 30年度	平成 29年度	比較
⑤ 基礎的財政収支(プライマリーバランス) 地方債の償還額を除いた歳出と、地方債の発行額を除いた歳入のバランスをみる指標です。行政サービスに要する経費を地方債や基金を利用せず、税収などで賄えているかどうかをみる指標です。 平成30年度は、公共施設等整備費支出が大きく減少したことなどにより、前年度と比較して25億2千6百万円の減額となっています。 業務活動収支+支払利息支出+投資活動収支	△3億 6千 9百万円	△28億 9千 5百万円	25億 2千 6百万円
⑥ 行政コスト対税収等比率 税収等の財源に対する純行政コストの比率を算出することにより、税収等をどれだけ資産形成の伴わない純行政コストに消費したかを表します。 平成30年度は、分母となる財源のうち税収等が増加したことなどにより、前年度と比較して6.4%の減となっています。 純経常行政コスト/財源(税収等+国県等補助金)	98.8%	105.2%	△6.4%
⑦ 受益者負担率 行政サービスの提供に対する、使用料及び手数料等の受益者の負担割合を表します。 平成30年度は、分子となる経常費用の減少により、前年度と比較して1.8%の増となっています。 経常収益/経常費用	3.9%	2.1%	1.8%

8. 用語説明

【貸借対照表】

用語	解説
有形固定資産	行政サービスを提供するために保有している資産。
事業用資産	インフラ資産、物品以外の資産。
インフラ資産	道路、河川、下水道などの社会基盤となる資産。
物品	物品、美術品、車両など。
無形固定資産	ソフトウェアなどの物的な形をもたない資産。
投資及び出資金	公営企業会計への出資金や、民間企業の株式や債券並びに 財団法人への出えん金など。
投資損失引当金	保有株式の実質価格が低下した場合に計上。
長期延滞債権	回収期限到来後1年を経過した税や使用料など。
長期貸付金	地方自治法第240条第1項に規定する債権である貸付 金。
基金(固定資産)	流動資産に区分されるもの以外の基金。
徴収不能引当金(固定資産)	長期延滞債権のうち、将来回収不能と見込まれる額。
現金預金	現金や普通預金など。
未収金	回収期限到来後1年を経過していない税や使用料など。
短期貸付金	貸付金のうち、1年以内に償還期限が到来するもの。
財政調整基金	年度間の財源調整を図り、財政の健全な運営のために積み 立てる基金。
減債基金	地方債の償還に充てるために積み立てられた基金。
徵収不能引当金(流動資産)	未収金のうち、将来回収不能と見込まれる額。
長期未払金	地方自治法第214条に規定する債務負担行為で確定債務 とみなされるもの及びその他の確定債務のうち流動負債に 区分されるもの以外。
退職手当引当金	特別職を含む全職員が年度末に自己都合退職したと仮定し た場合に必要な退職手当の額。

用語	解説
損失補償等引当金	将来発生する可能性のある損失補償等の履行見込額を負債 計上したもの。
前受収益	継続して役務の提供を行う場合、基準日時点において未だ 提供していない役務に対し支払いを受けたもの。
賞与等引当金	翌年度に支払が予定されている賞与・法定福利費のうち、 当年度の負担分を負債計上したもの。翌年度6月に支給される期末手当及び勤勉手当は、当年度の12月から翌年度の5月までの勤務に対して支払われると考えられるため、 支給予定額の4/6に相当する額を計上する。
預り金	基準日時点において、第三者から一時的に預かった金銭。
固定資産等形成分	町が調達した資金を充当して資産形成を行った場合、その 資産残高。(減価償却累計額 控除後)
余剰分(不足分)	町が使用可能な資源の蓄積をいい、原則として金銭の形態 で保有。

【行政コスト計算表】

用語	解説
賞与等引当金繰入額	当年度に賞与引当金として新たに繰り入れた額。
退職手当引当金繰入額	当年度に退職手当引当金として新たに繰り入れた額。
物件費	行政サービスを行うために必要な消耗品、備品等の購入 費、光熱水費、委託料、旅費などの経費。
維持補修費	施設などの維持修繕に要する経費。
減価償却費	有形固定資産が経年劣化等に伴い、価値が減少したと認め られる金額。
支払利息	地方債及び一時借入金の利子支払額。
徵収不能引当金繰入額	貸付金や未収金などについて、貸借対照表の徴収不能引当 金に当年度計上した額。
その他(その他の業務費用)	過年度分過誤納付還付、建物保険料など。
補助金等	各種団体等に対する補助金など。

用語	解説
社会補償給付	児童手当の支給、高齢者や障害者に対する援護措置、生活 保護などに要する経費。
他会計への繰出金	特別会計など他会計に対する財政支援にかかる経費。
その他(移転費用)	補償補てん及び賠償金、公課費など。
使用料及び手数料	施設利用料など行政サービスにかかる使用料や手数料。
その他(経常収益)	財産貸付収入など、その他の収入。
資産除売却損	資産の売却による収入が帳簿価額を下回る場合の差額及び 除却した資産除却時の帳簿価額。
投資損失引当金繰入額	投資損失引当金の当該会計年度発生額。
損失補償等引当金繰入額	損失補償等引当金の当該会計年度発生額。
資産売却益	資産の売却による収入が帳簿価額を上回る場合の差額。

【純資産変動計算書】

用語	解説
税収等	町民税や地方交付税、地方譲与税など。
国県等補助金	国庫支出金、県支出金など。
資産評価差額	有価証券などの評価差額。
無償所管換等	過年度に取得した資産が判明した場合や、無償で譲渡また は取得した固定資産の評価額など。

【資金収支計算書】

用語	解説
業務活動収支	行政サービスを行う上で、毎年度継続的に収入、支出されるもの。
投資活動収支	資産形成や投資等に関係する収入、支出。
財務活動収支	地方債発行、償還などの収入、支出。

一般会計等貸借対照表 (平成31年 3月31日現在)

(単位·百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】	107 114	【負債の部】	26 627
固定資産 有形固定資産	107, 114 106, 696		26, 637 22, 222
事業用資産	77, 414		1, 951
土地	66, 678		2, 464
立木竹	89	損失補償等引当金	-
建物	18, 929		0.543
建物減価償却累計額 工作物	△ 9, 181 97	流動負債 1 年内償還予定地方債	2, 547 2, 341
工作物減価償却累計額	∆ 17	未払金	2, 541
船舶	-	未払費用	_
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等 浮標等減価償却累計額	_	前受収益 賞与等引当金	158
, 新空機	_	員子寺ガヨ並 預り金	48
航空機減価償却累計額	_	その他	l c
その他	-	負債合計	29, 185
その他減価償却累計額	- 010	【純資産の部】	100 400
┃ 建設仮勘定 ┃ インフラ資産	818 29, 048		108, 488 △ 28, 971
土地	22, 250		20, 371
建物	135		
建物減価償却累計額	△ 57		
工作物	13, 871		
工作物減価償却累計額	△ 7, 221		
その他	_		
その他減価償却累計額	_		
建設仮勘定	70		
物品	1, 002		
物品減価償却累計額	△ 768		
無形固定資産	7		
ソフトウェア	7		
その他	_		
投資その他の資産	411		
投資及び出資金	21		
有価証券	2		
出資金	20		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	74		
長期貸付金	_		
基金	325		
▼	323		
その他	325		
その他	_		
徴収不能引当金	△ 9		
流動資産	1, 587		
現金預金	184		
未収金	34		
短期貸付金			
	1 074		
基金	1, 374		
財政調整基金	1, 374		
減債基金	-		
棚卸資産	=		
その他	_		
徴収不能引当金	△ 5	純資産合計	79, 517
資産合計	108, 701	負債及び純資産合計	108, 701

一般会計等行政コスト計算書

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

			(単位:百万円)
科	目	金	額
経常費用			14, 796
業務費用			6, 329
人件費			3, 011
職員給与費			2, 676
賞与等引当金繰入額			-
退職手当引当金繰入額	額		-
その他			335
物件費等			3, 033
物件費			2, 037
維持補修費			259
減価償却費			670
その他			67
その他の業務費用			285
支払利息			138
徵収不能引当金繰入額	額		0
その他			146
移転費用			8, 467
補助金等			1, 776
社会保障給付			4, 240
他会計への繰出金			1, 559
その他			893
経常収益			579
使用料及び手数料			110
その他			469
純経常行政コスト			14, 218
臨時損失			490
災害復旧事業費			398
資産除売却損			8
投資損失引当金繰入額			-
損失補償等引当金繰入額			-
その他			84
臨時利益			1
資産売却益			1
その他			_
純行政コスト			14, 707

一般会計等純資産変動計算書

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

				(年位:日/111/
科	目	合計	固定資産等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高		79, 825	110, 818	
純行政コスト(△)		△ 14, 707		△ 14, 707
財源		14, 395		14, 395
税収等		10, 012		10, 012
国県等補助金		4, 383		4, 383
本年度差額		△ 312		△ 312
固定資産の変動(内部			△ 2, 215	2, 215
有形固定資産等の増			883	△ 883
有形固定資産等の減			△ 2,967	2, 967
貸付金・基金等の増			31	△ 31
貸付金・基金等の減	少		△ 162	162
資産評価差額		0	0	
無償所管換等		-	_	
内部取引		-	_	
その他		3	△ 115	118
本年度純資産変動額		△ 308	△ 2, 330	2, 021
一般財源等充当調整額		_		_
本年度末純資産残高	·	79, 517	108, 488	△ 28, 971

一般会計等資金収支計算書

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

			(単位:百万円)
科	目	金	額
【業務活動収支】			
業務支出			14, 081
業務費用支出			5, 614
人件費支出			3, 011
物件費等支出			2, 342
支払利息支出			138
			122
その他の支出			
移転費用支出			8, 467
補助金等支出			1, 776
社会保障給付支出	.1.		4, 240
他会計への繰出支	出		1, 559
その他の支出			893
業務収入			14, 178
税収等収入			10, 016
国県等補助金収入			3, 724
使用料及び手数料収	入		110
その他の収入			329
臨時支出			398
災害復旧事業費支出			398
その他の支出			-
臨時収入			215
業務活動収支			△ 85
【投資活動収支】			
投資活動支出			922
公共施設等整備費支	·н.		883
基金積立金支出	.ш		40
を立行立立文出 投資及び出資金支出			40
貸付金支出			
その他の支出			
投資活動収入			613
			445
国県等補助金収入			
基金取崩収入			152
貸付金元金回収収入	•		10
資産売却収入			6
その他の収入			-
投資活動収支			△ 310
【財務活動収支】			. =00
財務活動支出			1, 783
地方債償還支出			1, 783
その他の支出			_
財務活動収入			2, 245
地方債発行収入			2, 245
その他の収入			
財務活動収支			463
本年度資金収支額			68
一般財源等充当調整額			_
前年度末資金残高			68
本年度末資金残高			136
前年度末歳計外現金残高	Ī		41
本年度歳計外現金増減額			7
本年度末歳計外現金残高			48
本年度末現金預金残高			184
下 1 及小为业 1天业 /人同		1	101

注記 (一般会計等)

- 1 重要な会計方針等
- (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法
 - ① 有形固定資産・・・取得原価 ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
 - ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・再調達原価 ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
 - イ 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

② 無形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

- (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法
 - ① 満期保有目的有価証券・・・・・・・・・貸却原価法(定額法)
 - ② 満期保有目的以外の有価証券

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・・会計年度末における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・取得原価

③ 出資金

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・・会計年度末における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

- (3) 有形固定資産等の減価償却の方法
 - ① 有形固定資産(リース資産を除きます。)・・・定額法
 - ② 無形固定資産(リース資産を除きます。)・・・定額法 (ソフトウェアについては、当町における見込利用期間(5年)に基づく定額 法によっています。)
 - ③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産(リース期間が1年 以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)

・・・・・・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

② 徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上 しています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

④ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の 健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上し ています。

⑤ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(5) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引 及びリース契約1件当たりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・ リース取引を除きます。)

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引 通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(6) 資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金、要求払預金)及び現金同等物(3か月以内の短期投資等) なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価額が50万円(美術品は300万円)以上の場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

② 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、金額が60万円未満であるとき、 又は法人税法基本通達により資産計上に該当しないと判定したときに修繕費と して処理しています。

- 2 重要な会計方針の変更等該当はありません。
- 3 重要な後発事象 該当はありません。
- 4 偶発債務該当はありません。

5 追加情報

- (1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項
 - ① 一般会計等財務書類の対象範囲は次のとおりです。
 - 一般会計、土地取得特別会計
 - ② 地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられており、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。
 - ③ 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。
 - ④ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における健全化判断比率の状況は、 次のとおりです。

実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
_	_	7.1%	113.6%

- ⑤ 繰越事業に係る将来の支出予定額 113百万円
- ⑥ 過年度修正等に関する事項

過年度の建設仮勘定及び長期未払金の計上に誤りがあったため、本年度において修正を行っています。この修正により、本年度の貸借対照表において、建設仮勘定及び長期未払金が1,976百万円減少し、純資産変動計算書において有形固定資産等の減少が同額計上されています。

(2)貸借対照表に係る事項

- ① 減債基金に係る積立不足額積立不足はありません。
- ② 基金借入金(繰替運用)

会計年度末における基金借入金(繰替運用)

338百万円

- ③ 地方交付税措置のある地方債のうち、将来の普通交付税の算定基礎である基準財政需要額に含まれることが見込まれる金額 15,167百万円
- ④ 地方公共団体の財政の健全化に関する法律における将来負担比率の算定要素は、 次のとおりです。

標準財政規模

9,832百万円

元利償還金・準元利償還金に係る基準財政需要額算入額

1,294百万円

将来負扣額

33,389百万円

充当可能基金額

1,463百万円

特定財源見込額

4,001百万円

地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額

18,222百万円

⑤ 地方自治法第234条の3に基づく長期継続契約で貸借対照表に計上されたリース債務金額はありません。

(3) 純資産変動計算書に係る事項

純資産における固定資産等形成分及び余剰分(不足分)の内容

① 固定資産等形成分 固定資産の額に流動資産における短期貸付金及び基金等を加えた額を計上して います。

② 余剰分(不足分)

純資産合計額のうち、固定資産等形成分を差し引いた金額を計上しています。

(4) 資金収支計算書に係る事項

① 基礎的財政収支

△369百万円

② 一時借入金

資金収支計算上、一時借入金の増減額は含まれていません。 なお、一時借入金の限度額及び利子額は次のとおりです。

一時借入金の限度額

1,500百万円

一時借入金に係る利子額

O百万円

③ 重要な非資金取引 該当はありません。

附属明細書

1. 貸借対照表の内容に関する明細

(1)資産項目の明細

①有形固定資産の明細

(単位:百万円)

区分	前年度末残高 (A)	本年度増加額 (B)	本年度減少額 (C)	本年度末残高 (A)+(B)-(C) (D)	本年度末 減価償却 累計額 (E)	本年度償却額 (F)	差引本年度末残高 (D)-(E) (G)
事業用資産	88,591	830	2,810	86,611	9,198	318	77,414
土地	66,328	350	-	66,678	-	-	66,678
立木竹	88	_	_	89	_	I	89
建物	18,894	51	16	18,929	9,181	310	9,748
工作物	84	13	_	97	17	8	81
船舶	-	-	-	ı	_	ı	-
浮標等	-	-	-	ı	_	ı	-
航空機	-	-	-	1	1	I	-
その他	-	-	-	ı	_	ı	-
建設仮勘定	3,196	415	2,794	818	_	ı	818
インフラ資産	35,996	640	310	36,326	7,278	313	29,048
土地	22,218	32	_	22,250	_	I	22,250
建物	135	_	_	135	57	3	78
工作物	13,607	264	-	13,871	7,221	310	6,650
その他	-	-	-		-		-
建設仮勘定	36	344	310	70	_	I	70
物品	947	123	68	1,002	768	37	234
合計	125,534	1,594	3,188	123,940	17,244	668	106,696

②有形固定資産の行政目的別明細

区分	生活インフラ・ 国土保全	教育	福祉	環境衛生	産業振興	消防	総務	合計
事業用資産	8,907	24,261	4,020	2,409	36,426	257	1,134	77,414
土地	8,082	16,580	2,551	2,264	36,275	161	764	66,678
立木竹	-	-	-	89	-	-	-	89
建物	58	7,601	1,438	43	150	96	362	9,748
工作物	-	37	31	13	-	-	-	81
船舶	-	-	-	-	-	-	-	-
浮標等	-	-	-	-	-	-	-	-
航空機	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	767	43	-	-	-	-	8	818
インフラ資産	19,398	-	-	9,378	272	-	1	29,048
土地	13,232	-	-	9,018	-	-	-	22,250
建物	-	-	-	78	-	-	-	78
工作物	6,096	-	-	281	272	-	1	6,650
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
建設仮勘定	70	-	-	-	-	-	-	70
物品	1	23	8	13	6	174	8	234
合計	28,306	24,284	4,028	11,800	36,704	431	1,144	106,696

③投資及び出資金の明細

市場価格のあるもの

銘柄名	株数・口数など (A)	時価単価 (B)	貸借対照表計上額 (A)×(B) (C)	取得単価 (D)	取得原価 (A)×(D) (E)	評価差額 (C) – (E) (F)	(参考)財産に関する 調書記載額
合計							

市場価格のないもののうち連結対象団体(会計)に対するもの

(単位:百万円)

中物画作がよいのかりの近れ対象	団体(至町)に対する	000							(平匹・ログ11)
相手先名	出資金額 (貸借対照表計上額) (A)	資産 (B)	負債 (C)	純資産額 (B) – (C) (D)	資本金 (E)	出資割合(%) (A)/(E) (F)	実質価額 (D)×(F) (G)	投資損失引当金 計上額 (H)	(参考)財産に関す る 調書記載額
府中町土地開発公社	5	1,147	985	162	5	100.00%	162	-	5
合計	5	1,147	985	162	5		162	=	5

市場価格のないもののうち連結対象団体(会計)以外に対するもの

相手先名	出資金額 (A)	資産 (B)	負債 (C)	純資産額 (B) – (C) (D)	資本金 (E)	出資割合(%) (A)/(E) (F)	実質価額 (D)×(F) (G)	強制評価減 (H)	貸借対照表計上額 (A)-(H) (I)	(参考)財産に関す る 調書記載額
(株)ちゅピCOMひろしま	2	6,081	3,637	2,443	1,500	0.10%	2	-	2	2
広島県信用保証協会	9	493,233	441,472	51,761	35,165	0.03%	16	-	9	9
(一財)広島県環境保全公社	1	4,467	445	4,022	300	0.22%	9	-	1	1
(公財)ひろしま文化振興財団	0	546	12	533	532	0.07%	0	ı	0	0
(公財)暴力追放広島県民会議	2	907	3	904	862	0.19%	2	-	2	2
地方公共団体金融機構	3	24,589,199	24,294,008	295,191	16,602	0.02%	59	-	3	3
合計	16	25,094,433	24,739,578	354,855	54,960		88	-	16	16

④基金の明細

種類	現金預金	有価証券	土地	その他	合計 (貸借対照表計上額)	(参考)財産に関する 調書記載額
府中町財政調整積立基金	1,374	-	-	I	1,374	1,505
府中村永世守屋奨学基金	1	2	-	-	3	2
府中町土地開発基金	5	-	289	-	294	294
安芸府中森づくり基金	3	-	-	-	3	3
府中町まちづくり振興基金	25	-	-	-	25	12
合計	1,407	2	289	-	1,699	1,816

⑤貸付金の明細 (単位:百万円)

相手先名または種別	長期分	貸付金	短期红	貸付金	(参考)
1日子・ルイロ よんじょ 1里が1	貸借対照表計上額	徵収不能引当金計上額	貸借対照表計上額	徵収不能引当金計上額	貸付金計
	_	-	_	_	-
合計	_	_	_	_	_

⑥長期延滞債権の明細

(単位:百万円)

● ス/列をIII 展 IE・2 / J/IIII		(十四:口/311/
相手先名または種別	貸借対照表計上額	徵収不能引当金計上額
【貸付金】		
その他の貸付金		
奨学資金貸付金	2	
小計	2	-
【未収金】		
税等未収金		
町民税	46	6
固定資産税	15	2
軽自動車税	1	0
都市計画税	2	0
その他の未収金		
分担金及び負担金	4	0
使用料及び手数料	-	-
財産収入	-	-
諸収入	4	1
小計	71	9
合計	74	9

⑦未収金の明細

相手先名または種別	貸借対照表計上額	徴収不能引当金計上額
【貸付金】 その他の貸付金		
て小匠の首は亚		
小計		
【未収金】		
税等未収金		
市民税	19	3
固定資産税	10	1
軽自動車税	1	0
都市計画税	1	0
その他の未収金		
分担金及び負担金	1	0
使用料及び手数料	-	-
財産収入	-	-
諸収入	2	0
小計	34	5
合計	34	5

(2)負債項目の明細

①地方債(借入先別)の明細

(単位:百万円)

() 1 () () () () () () () () (× 4.11.									(
種類	地方債残高	うち1年内償還予定	政府資金	地方公共団体 金融機構	市中銀行	その他の 金融機関	市場公募債	うち共同発行債	うち住民公募債	その他
【通常分】										
一般公共事業	3,024	142	1,185	1,663	-	176	-	_	-	_
公営住宅建設	531	7	_	-	32	499	_	-	-	_
災害復旧	152	0	152	-	-	-	_	-	-	_
教育•福祉施設	1,580	94	25	-	436	1,120	-	-	-	-
一般単独事業	8,208	825	95	2,397	1,868	3,848	-	-	-	-
その他	1,583	99	-	1,291	29	264	-	-	-	-
【特別分】							-	-	-	-
臨時財政対策債	8,463	814	3,664	2,114	1,583	1,102	-	-	-	-
減税補てん債	195	45	195	-	1	1	-	-	-	
退職手当債	0	_	-	-	-	-	-	-	_	-
その他	827	315	_	-	-	827	_	_	_	_
合計	24,563	2,341	5,316	7,464	3,948	7,835	-	_	-	-

②地方債(利率別)の明細

(単位:百万円)

地力	方債残高	1.5%以下	1.5%超 2.0%以下	2.0%超 2.5%以下	2.5%超 3.0%以下	3.0%超 3.5%以下	3.5%超 4.0%以下	4.0%超	(参考) 加重平均利率
	24,563	23,075	1,302	186	_	-	-	-	

③地方債(返済期間別)の明細

(単位:百万円)

地方債残高	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超 15年以内	15年超 20年以内	20年超
24,563	2,341	1,693	1,978	2,148	2,433	10,271	2,496	1,109	95

④特定の契約条項が付された地方債の概要

特定の契約条項が 付された地方債残高	契約条項の概要
_	-

⑤引当金の明細 (単位:百万円)

区分	前期末残高	小 和 特 中 22	本年度	本年度末残高		
<u></u>	前期末残高当期増加額		目的使用	その他	平十尺个八百	
徴収不能引当金(△) (長期延滞債権に対するもの)	9	-	0	-	9	
徴収不能引当金(△) (未収金に対するもの)	4	0	-		5	
賞与等引当金	159	-	-	2	158	
退職手当引当金	2,601	97	234	Į.	2,464	
슴計	2,774	97	234	-	2,635	

2. 行政コスト計算書の内容に関する明細

(1)補助金等の明細 (単位:百万円)

区分	名称	相手先	金額	支出目的
	県施行工事負担金	広島県	20	道路改良事業などの負担金
他団体への公共施設等整備補助金等	保育園等整備事業(民間)	社会福祉法人	16	保育園整備に係る補助金
(所有外資産分)	その他	_	4	_
	計		40	
その他の補助金等	後期高齢者医療療養給付費負担金	広島県後期高齢者医療広域連合	500	広島県後期高齢者医療広域連合に対する負担金
	広域ごみ処理施設管理運営費負担金	安芸地区衛生施設管理組合	331	広域ごみ処理施設に対する負担金
	施設型給付·地域型保育給付	保育事業者	317	施設や地域での保育に対する給付金
	私立幼稚園就園奨励費	私立幼稚園	94	私立幼稚園に対する負担金
	広域し尿処理施設運営費負担金	安芸地区衛生施設管理組合	83	広域し尿処理施設に対する負担金
	保育対策等促進事業	保育事業者	50	施設での保育に対する補助金
	府中町社会福祉協議会事業	府中町社会福祉協議会	34	府中町社会福祉協議会に対する補助金
	コミュニティバス運行事業負担金	民間企業	29	コミュニティバス運行に対する負担金
	地域コミュニティ活動支援事業	町内会	27	住民の自治活動に対する支援
	その他	_	272	_
	<u> </u>		1,736	
승카			1,776	

3. 純資産変動計算書の内容に関する明細

(1)財源の明細

(単位:百万円)

(1/ X) (M/ × 2 / J) THE							(1 1	🖂 /3 1/		
会 計	区 分		財源の内容					金	額	
一般会計		地			方			税		7,551
		地	方		譲		与	税		79
		税	関	連	7	交	付	金		1,054
		地	方	特	例	交	付	金		38
	税収等	地	方		交		付	税		947
		寄			附			金		39
		他	会	計	á	操	入	金		_
		そ			の			他		304
			1	<u> </u>		計				10,012
		資	本	的	1	補	助	金		445
E	国県等補助金	経	常	的	1	補	助	金		3,938
			1	<u> </u>	·	計				4,383
		合			計					14,395

(2)財源情報の明細

区分	金額	内訳					
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	並領	国県等補助金	地方債	税収等	その他		
純行政コスト	14,707	4,229	1,408	8,816	253		
有形固定資産等の増加	883	152	544	114	74		
貸付金・基金等の増加	31	2	ı	29	1		
その他	3	-	-	-	3		
合計	15,624	4,383	1,952	8,959	330		

4. 資金収支計算書の内容に関する明細

(1)資金の明細 (単位:百万円)

種類	本年度末残高
手許現金	0
要求払預金	136
슴計	136

全体貸借対照表 (平成31年 3月31日現在)

£) 0	A #5	5)	(単位:百万円)
科目	金額	<u>料</u> 目 【負債の部】	金額
【資産の部】 固定資産	107, 705	【貝頂の部】 固定負債	26, 637
有形固定資産	106, 788	地方債等	22, 222
事業用資産	77, 506		1, 951
土地	66, 770	退職手当引当金	2, 464
立木竹	89		-
建物建物	18, 929		0 557
建物減価償却累計額 工作物	△ 9, 181 97	流動負債 1 年内償還予定地方債等	2, 557 2, 341
工作物減価償却累計額	∆ 17	未払金	2, 041
船舶	=	未払費用	_
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額 航空機		賞与等引当金 預り金	167 48
航空機減価償却累計額	_	その他	0
その他	_	負債合計	29, 194
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	818		109, 078
インフラ資産	29, 048		△ 28, 709
土地	22, 250		_
建物	135		
建物減価償却累計額	△ 57		
工作物	13, 871		
工作物減価償却累計額	△ 7, 221		
その他	_		
その他減価償却累計額			
建設仮勘定	70		
物品	1, 003		
物品減価償却累計額	△ 769		
無形固定資産	7		
ソフトウェア	7		
	,		
その他	_		
投資その他の資産	909		
投資及び出資金	21		
有価証券	2		
出資金	20		
その他			
	100		
長期延滞債権	192		
長期貸付金	-		
基金	718		
減債基金	-		
その他	718		
その他			
· ·	۸ ۵۵		
徴収不能引当金	△ 22		
流動資産	1, 858		
現金預金	419		
未収金	75		
短期貸付金	=		
基金	1, 374		
財政調整基金	1, 374		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	_		
徵収不能引当金	△ 10		
繰延資産	<u> </u>	純資産合計	80, 369
資産合計	109, 563	他員座日間 負債及び純資産合計	109, 563
尺圧目則	109, 303	スタスンボス注口目	109, 303

全体行政コスト計算書

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

(単位・百万円)

			(単位:百万円)
科	目	金	額
経常費用			22, 995
業務費用			7, 030
人件費			3, 175
職員給与費			2, 809
賞与等引当金繰入額	額		0
退職手当引当金繰力	入額		-
その他			366
物件費等			3, 387
物件費			2, 391
維持補修費			259
減価償却費			670
その他			67
その他の業務費用			468
支払利息			138
徴収不能引当金繰力	入額		1
その他			329
移転費用			15, 965
補助金等			10, 281
社会保障給付			4, 242
他会計への繰出金			549
その他			893
経常収益			604
使用料及び手数料			110
その他			495
純経常行政コスト			22, 390
臨時損失			490
災害復旧事業費			398
資産除売却損			8
損失補償等引当金繰入	額		_
その他			84
臨時利益			1
資産売却益			1
その他			-
純行政コスト			22, 879

全体純資産変動計算書

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

科	目	合計	固定資産等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高		80, 605	111, 313	△ 30, 709	-
純行政コスト(△)		△ 22,879		△ 22, 879	-
財源		22, 641		22, 641	_
税収等		13, 346		13, 346	_
国県等補助金		9, 295		9, 295	_
本年度差額		△ 238		△ 238	_
固定資産の変動(内部変	動)		△ 2, 121	2, 121	
有形固定資産等の増加			883	△ 883	
有形固定資産等の減少	•		△ 2,967	2, 967	
貸付金・基金等の増加			126	△ 126	
貸付金・基金等の減少	•		△ 162	162	
資産評価差額		0	0		
無償所管換等		_	_		
他団体出資等分の増加		_			-
他団体出資等分の減少		_			_
比例連結割合変更に伴う	差額	_			_
その他		2	△ 115	117	
本年度純資産変動額	•	△ 236	△ 2, 235	1, 999	_
本年度末純資産残高	•	80, 369	109, 078	△ 28, 709	_

全体資金収支計算書

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

【業務活動収支】 業務支出 業務費用支出 人件費支出 物件費等支出 支払利息支出 その他の支出 移転費用支出 補助金等支出 社会保障給付支出 他会計への繰出金	額 22, 251 6, 287 3, 175 2, 696 138 278 15, 965 10, 281 4, 242 549
業務支出 業務費用支出 人件費支出 物件費等支出 支払利息支出 その他の支出 移転費用支出 補助金等支出 社会保障給付支出 他会計への繰出金	6, 287 3, 175 2, 696 138 278 15, 965 10, 281 4, 242
業務費用支出 人件費支出 物件費等支出 支払利息支出 その他の支出 移転費用支出 補助金等支出 社会保障給付支出 他会計への繰出金	6, 287 3, 175 2, 696 138 278 15, 965 10, 281 4, 242
人件費支出 物件費等支出 支払利息支出 その他の支出 移転費用支出 補助金等支出 社会保障給付支出 他会計への繰出金	3, 175 2, 696 138 278 15, 965 10, 281 4, 242
物件費等支出 支払利息支出 その他の支出 移転費用支出 補助金等支出 社会保障給付支出 他会計への繰出金	2, 696 138 278 15, 965 10, 281 4, 242
支払利息支出 その他の支出 移転費用支出 補助金等支出 社会保障給付支出 他会計への繰出金	138 278 15, 965 10, 281 4, 242
その他の支出 移転費用支出 補助金等支出 社会保障給付支出 他会計への繰出金	278 15, 965 10, 281 4, 242
移転費用支出 補助金等支出 社会保障給付支出 他会計への繰出金	15, 965 10, 281 4, 242
補助金等支出 社会保障給付支出 他会計への繰出金	10, 281 4, 242
社会保障給付支出 他会計への繰出金	4, 242
他会計への繰出金	
	549
その他の支出	893
業務収入	22, 455
税収等収入	13, 360
国県等補助金収入	8, 635
使用料及び手数料収入	110
その他の収入	350
臨時支出	398
災害復旧事業費支出	398
その他の支出	_
臨時収入	215
業務活動収支	21
【投資活動収支】	
投資活動支出	1, 046
公共施設等整備費支出	883
基金積立金支出	163
投資及び出資金支出	_
貸付金支出	_
その他の支出	_
投資活動収入	613
国県等補助金収入	445
基金取崩収入	152
貸付金元金回収収入	10
資産売却収入	6
その他の収入	_
投資活動収支	△ 433
【財務活動収支】	
財務活動支出	1, 783
地方債等償還支出	1, 783
その他の支出	_
財務活動収入	2, 245
地方債等発行収入	2, 245
その他の収入	-
財務活動収支	463
本年度資金収支額	51
前年度末資金残高	320
比例連結割合変更に伴う差額	_
本年度末資金残高	371
前年度末歳計外現金残高	41
本年度歳計外現金増減額	7
本年度末歳計外現金残高	48
本年度末現金預金残高	419

注記(全体)

- 1 重要な会計方針等
- (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法
 - ① 有形固定資産・・・取得原価 ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
 - ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・再調達原価 ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
 - イ 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

② 無形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

- (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法
 - ① 満期保有目的有価証券・・・・・・・・・貸却原価法(定額法)
 - ② 満期保有目的以外の有価証券

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・・会計年度末における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・所得原価

③ 出資金

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・・会計年度末における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

- (3) 有形固定資産等の減価償却の方法
 - ① 有形固定資産(リース資産を除きます。)・・・定額法
 - ② 無形固定資産(リース資産を除きます。)・・・定額法 (ソフトウェアについては、当町における見込利用期間(5年)に基づく定額 法によっています。)
 - ③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産(リース期間が1年 以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)

・・・・・・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(4) 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体(会計)に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

② 徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上 しています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金 期末自己都合要支給額を計上しています。

④ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の 健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上し ています。

⑤ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相 当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上してい ます。

(5) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引 及びリース契約1件当たりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・ リース取引を除きます。)

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引 通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

② オペレーティング・リース取引 通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(6) 資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金、要求払預金)及び現金同等物(3か月以内の短期投資等) なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の

(7) その他財務書類作成のための基本となる重要な事項

① 物品及びソフトウェアの計上基準

物品については、取得価額又は見積価額が50万円(美術品は300万円)以上の 場合に資産として計上しています。

ソフトウェアについても物品の取扱いに準じています。

② 資本的支出と修繕費の区分基準

資本的支出と修繕費の区分基準については、金額が60万円未満であるとき、又は法人税法基本通達により資産計上に該当しないと判定したときに修繕費として処理しています。

(8) 消費税の会計処理

消費税の会計処理は、税込方式によっています。

- 2 重要な会計方針の変更等 該当はありません。
- 3 重要な後発事象 該当はありません。
- 4 偶発債務該当はありません。

5 追加情報

(1) 全体財務書類の対象範囲は次のとおりです。

一般会計、土地取得特別会計、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、後期 高齢者医療特別会計。

(2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられており、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

(3) 表示単位未満の取扱い

百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

(4)下水道事業特別会計については、地方公営企業法の適用に向けての移行期間中 (平成30年度決算分まで)であるため、連結していません。

- 39 -

連結貸借対照表 (平成31年 3月31日現在)

(単位:百万円)

 ■	ᄼᄦ	£)	(単位:百万円)
科 目	金額	科 目 【負債の部】	金額
している。 固定資産	110, 733		28, 439
有形固定資産	109, 566		24, 020
事業用資産	80, 276	長期未払金	1, 951
土地,,	67, 783		2, 467
立木竹 建物	89 22, 161	損失補償等引当金 その他	_
建物 建物減価償却累計額	∠2, 101 △ 11, 842		2, 563
工作物	1, 473		2, 346
工作物減価償却累計額	△ 218	未払金	-
船舶	-	未払費用	_
船舶減価償却累計額 浮標等	_	前受金 前受収益	0
浮標等減価償却累計額	_	前文权 值 賞与等引当金	168
航空機	_	預り金	48
航空機減価償却累計額	_	その他	0
その他 その他減価償却累計額	_	負債合計 【純資産の部】	31, 001
建設仮勘定	830		112, 149
インフラ資産	29, 057	余剰分(不足分)	△ 30, 038
土地	22, 255		△ 25
建物	135		
建物減価償却累計額	△ 57		1
工作物	13, 883		
工作物減価償却累計額	△ 7, 230		1
その他	_		
その他減価償却累計額			
	70		
建設仮勘定	70		
物品	1, 009		
物品減価償却累計額	△ 775		
無形固定資産	8		
ソフトウェア	8		
その他	_		
投資その他の資産	1, 159		
投資及び出資金	21		
有価証券	2		
出資金	20		
その他	_		
長期延滞債権	195		
長期貸付金	-		1
基金	966		1
減債基金	_		1
その他	966		1
その他	_		1
徴収不能引当金	△ 22		
流動資産	2, 353		
現金預金	872		
未収金	76		1
短期貸付金	-		1
基金	1, 415		1
財政調整基金	1, 415		
減債基金	=		
棚卸資産	_		
その他	_		
徴収不能引当金	△ 10		
	<u> </u>	純資産合計	82, 085
資産合計	113, 086	負債及び純資産合計	113, 086
<u> </u>	110,000	ススペンでスぱ日日	110, 000

連結行政コスト計算書

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

(単位:百万円)

			<u>(単位:百万円)</u>
科	目	金	額
経常費用			29, 150
業務費用			8, 137
人件費			3, 196
職員給与費			2, 826
賞与等引当金繰入額	額		1
退職手当引当金繰入	入額		3
その他			366
物件費等			4, 395
物件費			2, 781
維持補修費			339
減価償却費			857
その他			417
その他の業務費用			546
支払利息			140
徵収不能引当金繰入	入額		1
その他			406
移転費用			21, 013
補助金等			15, 315
社会保障給付			4, 242
他会計への繰出金			563
その他			893
経常収益			1, 017
使用料及び手数料			164
その他			853
純経常行政コスト			28, 134
臨時損失			490
災害復旧事業費			398
資産除売却損			8
損失補償等引当金繰入	額		-
その他			84
臨時利益			1
資産売却益			1
その他			-
純行政コスト			28, 623

連結純資産変動計算書

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

(単位:百万円)

科	目	合計	固定資産等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高		82, 462	114, 931	△ 32, 494	25
純行政コスト(△)		△ 28, 623		△ 28, 623	-
財源		28, 268		28, 268	_
税収等		16, 055		16, 055	_
国県等補助金		12, 213		12, 213	_
本年度差額		△ 355		△ 355	-
固定資産の変動(内部変	動)				
有形固定資産等の増加					
有形固定資産等の減少					
貸付金・基金等の増加					
貸付金・基金等の減少	•			_	
資産評価差額		0			
無償所管換等		_			
他団体出資等分の増加		_			_
他団体出資等分の減少		_			_
比例連結割合変更に伴う	差額	△ 25			△ 25
その他		2			
本年度純資産変動額	•	△ 377			△ 25
本年度末純資産残高		82, 085	112, 149	△ 30,063	-

連結資金収支計算書

自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日

			(単位:百万円)
科	目	金	額
【業務活動収支】			
業務支出			27, 870
業務費用支出			6, 855
人件費支出			3, 192
物件費等支出			3, 168
支払利息支出			140
その他の支出			355
移転費用支出			21, 015
補助金等支出			15, 315
社会保障給付支出			4, 242
他会計への繰出金			563
その他の支出			895
業務収入			28, 484
税収等収入			16, 052
国県等補助金収入	7		11, 553
使用料及び手数料収	八		164
その他の収入			716
臨時支出			398
災害復旧事業費支出			398
その他の支出			
臨時収入			215
業務活動収支			432
【投資活動収支】			
投資活動支出			1, 051
公共施設等整備費支	出		884
基金積立金支出			168
投資及び出資金支出			_
貸付金支出			_
その他の支出			_
投資活動収入			613
国県等補助金収入			445
基金取崩収入			152
貸付金元金回収収入			10
資産売却収入			6
その他の収入			-
投資活動収支			△ 439
【財務活動収支】			
財務活動支出			2, 099
地方債等償還支出			2, 099
その他の支出			-
財務活動収入			2, 443
地方债等発行収入			2, 443
その他の収入			
財務活動収支			344
本年度資金収支額			337
前年度末資金残高			490
比例連結割合変更に伴う	差額		Δ 2
本年度末資金残高			824
新在 <u>在</u> 士选制从四个建立		1	/ 11
前年度末歳計外現金残高			41
本年度歳計外現金増減額			1
本年度末歳計外現金残高			48
本年度末現金預金残高			872

注記(連結)

- 1 重要な会計方針等
- (1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法
 - ① 有形固定資産・・・取得原価 ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。
 - ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・・再調達原価 ただし、道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。
 - イ 昭和60年度以後に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

② 無形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの・・・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・・・・・・再調達原価

- (2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法
 - ① 満期保有目的有価証券・・・・・・・・・貸却原価法(定額法)
 - ② 満期保有目的以外の有価証券

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・・会計年度末における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・ 取得原価

③ 出資金

ア 市場価格のあるもの・・・・・・・・・会計年度末における市場価格

イ 市場価格のないもの・・・・・・・・出資金額

(3)棚卸資産の評価基準及び評価方法

主として個別法に基づく低価法

- (4) 有形固定資産等の減価償却の方法
 - ① 有形固定資産(リース資産を除きます。)・・・定額法
 - ② 無形固定資産(リース資産を除きます。)・・・定額法 (ソフトウェアについては、当町における見込利用期間(5年)に基づく定額 法によっています。)
 - ③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産(リース期間が1年

以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)

・・・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不納欠損率により徴収不能見込額を計上しています。

② 退職手当引当金 期末自己都合要支給額を計上しています。

③ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の 健全化に関する法律に規定する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上し ています。

④ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引 及びリース契約1件当たりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・ リース取引を除きます。)

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

- イ ア以外のファイナンス・リース取引 通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。
- ② オペレーティング・リース取引 通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 資金収支計算書における資金の範囲

現金(手許現金、要求払預金)及び現金同等物(3か月以内の短期投資等) なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の 受払いを含んでいます。

- (8)消費税の会計処理 消費税の会計処理は、税込方式によっています。
- 2 重要な会計方針の変更等該当はありません。
- 3 重要な後発事象 該当はありません。
- 4 偶発債務 該当はありません。
- 5 追加情報
- (1) 連結対象団体

団体名	区分	連結の方法	比例連結割合		
四件石	<u>کی</u>		一般会計	特別会計	
広島県市町総合事務組合	一部事務組合 • 広域連合		2.1335%	_	
安芸地区衛生施設管理組合			比例連結	19.1569%	43.3732%
広島県後期高齢者医療広域連合			1.9210%	1.6937%	
府中町土地開発公社	地方三公社	全部連結	_	_	

連結の方法は次のとおりです。

- ① 一部事務組合・広域連合は、各構成団体の経費負担割合等に基づき比例連結の対象としています。
- ② 地方三公社は、全部連結の対象としています。

(2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられており、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

(3) 表示単位未満の取り扱い

百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。